

令和7年度 千葉県における「うちむらさきがい東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるウチムラサキガイの漁業実態

千葉県においてウチムラサキガイは東京湾内湾海域の重要な資源となっており、主に潜水器漁業で漁獲されている。一方、近年は漁獲量が減少傾向となっている。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近５年間（平成２８年から令和２年まで）の平均値（３９トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「うちむらさきがい東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は下表のとおりで、１漁協所属の約２０名がウチムラサキガイを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、１協定となっている。

協定	備考
富津	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
潜水器漁業	休漁日の設定	漁協公休日	
	操業時間の制限	漁協が定めた定めた操業時間	

協定に記載されている取組

(3) 資源管理の取組状況

県内主要港におけるウチムラサキガイの漁獲量は年変動が大きいが、2005 年以降で最も漁獲量が多かったのは 2016 年であった。一方、近年の漁獲量は減少傾向であり、2023 年以降は水揚げがないため、2024 年の漁獲量は資源管理の目標において維持するとした平成 28 年から令和 2 年の漁獲量の平均値を下回ることとなった(図)。一方、協定参加者による検証(以下、自己点検という。)では、2023 年以降は資源減少を理由として休漁状態が続いているという結果となった。そのため、近年の県内主要港における漁獲量が資源管理の目標を下回った原因としては、資源の減少に伴う休漁の影響が大きいと考えられた。

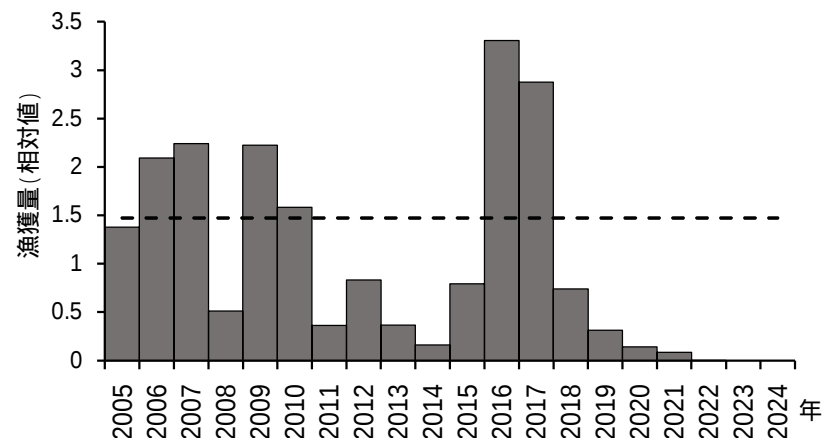


図 本県主要港におけるウチムラサキガイ漁獲量(相対値)の経年変化(棒グラフ)及び
資源管理の目標とした漁獲量(相対値)(点線)の比較(千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

ウチムラサキガイについては休漁日の設定や操業時間の制限といった取組が実施されていたものの、2023 年以降は資源の減少に伴い休漁状態が続いており、自己点検では資源の減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されておらず、効果を感じられない要因は海洋環境による影響(水質の変化等により、本種が増殖できない影響)や、本種の大きな資源変動があった可能性があるとは判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境については漁獲量や資源の減少の要因の 1 つと考えられる。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。